

独立行政法人国立美術館  
東京国立近代美術館

Independent Administrative Institution National Museum of Art  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

概要



平成30年度

## ご挨拶

世界最古の美術館は、15世紀ローマにできたカピトリノ美術館と言われています。時の教皇が保管していた古代ローマのブロンズ像などを一般市民にも観られるように、宮殿や中庭を開放したのが始まりだそうです。

当初の美術館は、誰もが認める美しい芸術品を誰にでも観られるように建物を作り、展示を行う文化施設として発展してきました。国内外の有名な美術館には世界中から人が集まります。日頃美術に関心のある人もない人も旅行の際には必ず訪れる観光スポットとして、美術館は注目されるようになりました。

しかし、20世紀以降の美術館には新たな存在意義が加わるようになりました。人間社会が直面する様々な課題に対して美術の力で問題提起をしたり、解決に向けた提案をしたりするなど、人々に対してメッセージを発する文化施設としての性格も加わるようになりました。

そのような役割が求められる美術館にとって、近現代の美術作品は極めて重要な収蔵・展示対象となっています。なぜなら、多くの作家は私たちと同じ時代を生き、同じ空気を吸い、同じ経験を持っているからです。古典的な名作が時代を超えて私たちに様々な価値を訴えかけてくるのに対し、近現代の作品はより私たちに身近な存在として私たちとともに生きているとも言えるでしょう。

今や美術館は、衣食足りて心に余裕があるときにだけ行くところではありません。人生に行き詰まって、つらいとき、苦しいとき、悲しいときこそ美術館を訪れてほしいと思います。なぜなら、現代の美術館に並ぶ作品の中には、あなたと同じくらい、あるいはそれ以上のつらさ、苦しき、悲しさが表現されているからです。

東京国立近代美術館は、昭和27年（1952年）に日本で最初の国立美術館として開館し、主に我が国の近現代の美術・工芸作品を収集・展示するとともに、展示作品を題材としたガイドツアー、講演会、シンポジウムなど様々な活動を行ってきました。

特にボランティア・ガイドによるツアーは、作品を紹介する一方向のものでなく、作品を観て感じたり考えたりしたことを参加者同士で意見交換する対話型のスタイルを取り入れています。

当館も21世紀の美術館に求められる役割の一端を担いたいと考えています。20世紀以降に生まれた日本美術の宝の魅力が実感でき、美術を通じて自由な対話が発展し、多様な価値観を分かち合うことで、国内外の人々が一緒にハッピーな時間を過ごせるような美術館を目指して参ります。

引き続きみなさまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

独立行政法人国立美術館  
東京国立近代美術館  
館長 神代 浩



## 目次

概要	1
主な活動	2
略年表	6
その他	8

## 表紙

岸田劉生《道路と土手と堀(切道之写生)》1915年(油彩)  
(1971年6月22日重要文化財指定)

# 概要

東京国立近代美術館は皇居に近い北の丸公園に本館と工芸館を有し、広く近代美術への関心を喚起するための事業を展開しています。

当館は、日本で最初の国立美術館として、昭和27年(1952年)12月1日に中央区京橋に開館しました。かねてより待望されていた、同時代の美術をいつでも見ることのできる国立の展示施設として、旧日活本社ビルを建築家の前川國男氏の設計により改装し、その活動をスタートさせたのです。

その後、所蔵作品の増加と企画展の拡充等により、コレクションの展示が次第に制約されるようになったことから、美術館の移転が検討されていたところ、石橋正二郎評議員より美術館建築の寄附申し入れがあり、その厚意によって、昭和44年(1969年)、千代田区北の丸公園の現在地に、建築家谷口吉郎氏設計による新館が開館しました。また昭和52年(1977年)には北の丸公園内の旧近衛師団司令部庁舎(重要文化財)に工芸館が開館し、現在に至ります。

一方、組織としては、東京国立近代美術館は平成13年(2001年)4月1日より、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館とともに独立行政法人国立美術館を構成する美術館となりました。現在、独立行政法人国立美術館は上記4館に、平成19年(2007年)に開館した国立新美術館、平成30年(2018年)に当館より独立した国立映画アーカイブを加えて、わが国における美術振興の中心的拠点として活動を展開しています。



京橋時代の美術館

独立行政法人国立美術館ホームページ <http://www.artmuseums.go.jp/>

## 本館

本館の建築は、長年にわたり多くの方々に親しまれてきましたが、築30年を機に坂倉建築研究所の設計により大規模な増改築が施されました。

展示室の拡張、閲覧サービスのできるアートライブラリの整備、レストランやミュージアムショップの新設、休憩スペースの増設など、鑑賞環境の整備と充実ならびに耐震性の強化を図った工事は、平成13年(2001年)9月に竣工しました。そして平成14年(2002年)1月、記念展「未完の世紀—20世紀美術がのこすもの」をもって、新たな活動を再開しました。

また平成24年(2012年)には開館60周年を迎え、所蔵品ギャラリーの大規模なリニューアルを行いました。



外観 撮影:上野則宏

## 工芸館

工芸館は、東京国立近代美術館の分館として、近現代の工芸およびデザイン作品を展示紹介しています。その建物は、明治43年(1910年)3月に陸軍技師・田村 鎮<sup>やすし</sup>氏の設計により建てられた近衛師団司令部庁舎を、美術館仕様に改修したものです。

第2次大戦後、荒廃したままに放置されていた旧司令部庁舎は一度取り壊しの対象となりましたが、明治洋風煉瓦造建築の一典型として、また、官公庁建築の重要な遺構として、その建築的価値を惜む声がよせられたことから、昭和47年(1972年)9月、「重要文化財に指定のうえ、東京国立近代美術館分室として活用する」旨の閣議了解がなされ、同年10月、「旧近衛師団司令部庁舎」として重要文化財に指定されました。

外観および玄関、広間の保存修理工事と、谷口吉郎氏による展示室の設計に基づく内部の改装によって、工芸部門の展示施設として再生した建物は、昭和52年(1977年)11月15日、東京国立近代美術館工芸館として開館しました。修復にあたって建築当初のスレート葺に還元された屋根や、正面ホールから2階に伸びる両袖階段には、往時の重厚な装いを見ることができます。また、ゴシック風の赤煉瓦の簡素な外観は、四季折々に周辺の樹木と調和して、独特のたたずまいをみせています。



外観

# 主な活動

## 展覧会の開催

本館、工芸館では、20世紀以降の我が国の美術と工芸の多様な展開を歴史的に跡づけた所蔵作品展と、様々なテーマや切り口で構成された特別展及び共催展を開催しています。

### 本館

所蔵作品展「MOMAT コレクション」(所蔵品ギャラリー、4F - 2F)では、日本有数の近代美術のコレクションを公開しています。関連する海外の作品を交えながら、20世紀初頭から今日までの日本の美術の流れを概観できるよう展示しています。重要文化財15点(2点は寄託作品)を含む、13,000点を超えるコレクションの中から毎会期約200点を選び、ほぼ時代ごとに章分けして構成しています。年数回の大きな展示替を行いながら、特定の作家やテーマに沿った特集展示や小企画を開催して、多様な角度から所蔵作品に光をあてています。平成24年(2012年)にはリニューアルを行い、内容、休憩コーナーを含むスペースともにさらに充実しました。

特別展及び共催展は、1階の企画展ギャラリーで特定のテーマに基づいて国内外の美術作品を展示するもので、年3～4回開催しています。



所蔵品ギャラリー 3F「日本画」コーナー 撮影:木奥恵三



4F 休憩コーナー「眺めのよい部屋」 撮影:木奥恵三

本館の展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/am/exhibition/>

本館で過去に行われた展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/am/exhibition/archive/>

### 工芸館

所蔵作品展では、我が国の近・現代工芸の秀作を中心に、年に数回、3,700点を超す所蔵作品の中から120～140点の作品を選び、近代工芸の歴史をたどる展示や名品の展示、特定のテーマによる展示などを開催しています。

特別展及び共催展は、特定のテーマに基づいて国内外の工芸作品を展示するもので、年間2～3回開催しています。また、デザインに関する特別展を本館(2F ギャラリー4)で定期的に開催しています。

このほか、工芸館では毎年「東京国立近代美術館工芸館巡回展」を開催し、年2～3会場において工芸館の所蔵作品を全国で紹介する機会を設けています。



展示室



2Fホール 撮影:上野則宏

工芸館の展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/cg/exhibition/>

工芸館で過去に行われた展覧会についてはこちら↓

<http://www.momat.go.jp/cg/exhibition/archive/>

## 図書・資料収集

本館のアートライブラリ、工芸館の図書閲覧室は、国内外の画集、写真集や各種美術参考図書、美術雑誌及び展覧会カタログなど約16万点を所蔵しており、一般の方々による閲覧が可能となっています(一部を除き閉架式)。

これら2つの図書室は、国立映画アーカイブ、国立新美術館、国立西洋美術館とともに都内および神奈川県内の6つの美術館、博物館の蔵書が検索できる美術図書館横断検索 ALC(<http://alc.opac.jp/>)に加盟しています。

本館アートライブラリについてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/visit/library/>

工芸館図書閲覧室についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/cg/visit/library/>



本館アートライブラリ 撮影:上野則宏

## 教育普及活動

### 本館

企画展にあわせて講演会やシンポジウム、ギャラリートークなどを開催するほか、所蔵作品展でも、解説ボランティアによる毎日の所蔵品ガイドやハイライトツアー、学芸員によるキュレータートークなどを行っています。小学生から大学生までの学校団体に対しては、成長に合わせたきめ細やかな鑑賞プログラムを提供し、未就学児やファミリーに向けてもワークショップなどを行っています。

### 工芸館

展覧会ごとにギャラリートークやアーティストトークを開催し、企画にこめたメッセージや作り手の思いに触れながら、工芸の魅力を伝えています。

また、初めての方でも気軽に工芸を楽しめる工芸館オリジナルのプログラム「タッチ&トーク」を定期的に行っており、工芸作品特有の豊かな質感に直接触れてもらいながら対話することで、来館者の「見る力」を引きだすことを目指しています。「タッチ&トーク」は、幼稚園から大学まで、さまざまな授業の一環としてもご利用いただいています。

本館の教育普及活動についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/learn/>

工芸館の教育普及活動についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/cg/learn/>



本館 未就学児とその家族のための「おやこでトーク」



工芸館 こどもタッチ&トーク

## 調査研究活動

東京国立近代美術館における美術館活動の推進・充実を図るため、継続的な調査研究を実施しています。また、その成果を、展覧会カタログ、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、研究紀要、所蔵品目録、活動報告などを通じて発信しています。

調査研究についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/research/>

## その他

所蔵作品をより多くの方々に親しんでいただくために、他の美術館等で開催される展覧会へ作品貸出を行っています。また教育、学術または文化に係る出版などを行う他の団体等に向けて、所蔵作品のデジタル画像や写真原板の貸出などを行っています。

また、申し込み制により、当館が所蔵する写真作品を直接閲覧できる「プリントスタディ(写真作品閲覧制度)」を実施しています。

所蔵作品の画像貸出についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/ge/reproduction/>

プリントスタディについてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/collection/printstudy/>

## 美術作品の収集・保管

### 本館

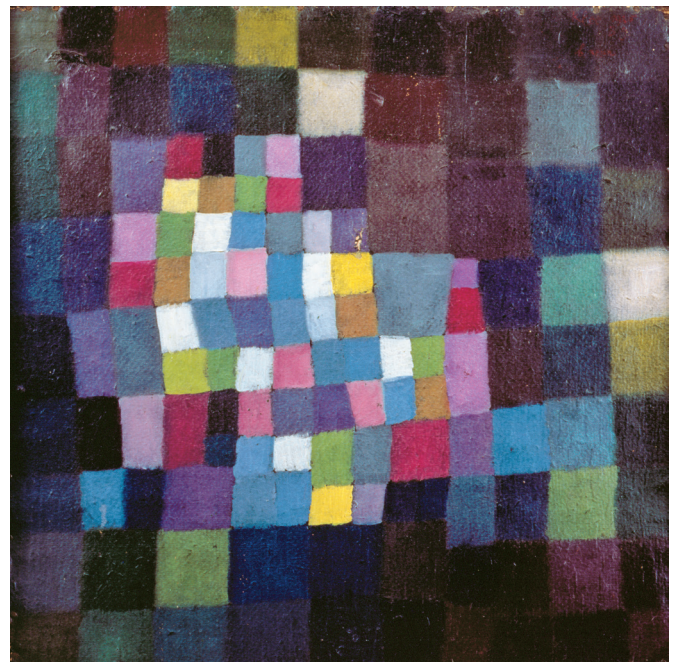
本館では、およそ明治40年（1907年、日本で最初の官設の公募展、文部省美術展覧会が開催された年）から今日までの、約100年間の日本と海外の美術作品を収集しています。現在、日本画、洋画、版画、水彩・素描、彫刻（立体造形）、写真、映像などの各分野にわたって、約13,000点を収蔵しています。

所蔵美術作品数（平成29年度末現在）

種別	点数
日本画	842
油彩その他	1,268
版画	3,051
水彩・素描	4,089
彫刻（立体造形）	462
書	21
写真	2,744
映像	56
美術資料	680
合計	13,213



上村松園《母子》1934年（日本画）（2011年6月27日重要文化財指定）



パウル・クレー《花ひらく木をめぐる抽象》1925年（油彩）

本館の所蔵作品についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/am/collection/>

## 工芸館

工芸館では、明治以降今日までの日本と海外の工芸及びデザイン作品を収集しています。特に、多様な展開を見せた戦後の作品の収集に重点を置いています。陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなどの各分野にわたって約3,800点を収蔵しています。

所蔵美術作品数（平成29年度末現在）

種別	点数
陶磁	1,012
ガラス	190
漆工	360
木工	86
竹工	48
染織	495
人形	97
金工	436
その他の工芸	13
工芸資料	101
工業デザイン	188
グラフィック・デザイン	776
合計	3,802



鈴木長吉《十二の鷹》(部分) 1893年(金工)



富本憲吉《色絵金銀彩羊歯文八角飾箱》1959年(陶磁)

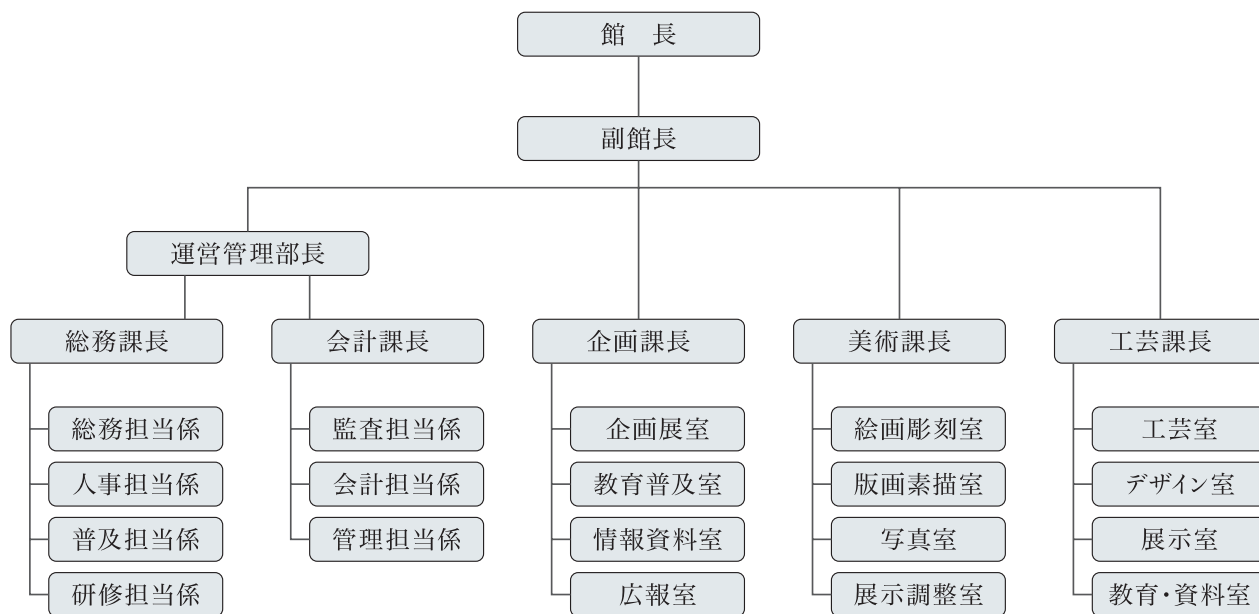
# 略年表

昭和26年(1951年)		文部省予算に国立近代美術館設置のため1億円が計上された。また、同年に国立近代美術館設置に必要な諸事項を調査審議するため、文部省に国立近代美術館設置準備会が置かれた。
	12月20日	国立近代美術館設置準備会は本館開設について文部大臣に答申した。
昭和27年(1952年)	3月	日活本社ビルを8,300万円で購入し、1,700万円で建築家前川國男の設計により、改装工を行うことになった。
	6月6日	文部省設置法が改正(昭和27年法律第168号)され国立近代美術館が設置された。
	8月1日	国立近代美術館長事務取扱として寺中作雄(文部省社会教育局長)が任命された。
	10月1日	初代館長に岡部長景(元文部大臣)が任命された。
	12月1日	開館。これを記念して第1回展「日本近代美術展:近代絵画の回顧と展望」(12月1日～28年1月25日)を開催した。
昭和35年(1960年)	1月22日	岡部長景が館長を辞任し、後任には稲田清助(前文部事務次官)が任命された。
昭和38年(1963年)	3月1日	文部省設置法施行規則の改正(昭和38年文部省令第2号)により国立近代美術館京都分館が設置され、分館長に今泉篤男(前国立近代美術館次長)が任命された。
昭和41年(1966年)	1月11日	国立近代美術館の移転の候補地を探していたが、閣議了解「皇居周辺北の丸地区の整備について」により、同地区に移転することが可能となった。
	2月16日	稲田清助が館長を辞任し、後任には小林行雄(元文部事務次官)が任命された。
昭和42年(1967年)	1月27日	石橋正二郎評議員から東京都千代田区代官町2番地に、鉄筋コンクリート建地上3階、地下2階、予定価額約12億円の建物を新築・寄贈したいとの申し出があった。
	5月31日	文部省設置法(昭和24年法律第146号)が改正(昭和42年法律第17号)され、6月1日から国立近代美術館は、東京国立近代美術館となり、国立近代美術館京都分館は、独立して京都国立近代美術館となった。
昭和43年(1968年)	6月15日	文部省設置法が改正(昭和43年法律第99号)され、東京国立近代美術館は文化庁の附属機関となった。
昭和44年(1969年)	4月1日	文部省設置法施行規則が改正(昭和44年文部省令第13号)され東京国立近代美術館にフィルムセンターが設置された。
	5月7日	石橋正二郎評議員の寄贈による東京国立近代美術館の竣工寄贈式が行われた。
	6月11日	常陸宮同妃両殿下をお迎えして、新館の開館式を行った。これを記念して「現代世界美術展:東と西の対話」(6月12日～8月17日)を開催した。
昭和45年(1970年)	3月	終戦時アメリカに接収された絵画153点が送還(無期限貸与)された。
昭和47年(1972年)	7月1日	小林行雄が館長を辞任し、後任には岡田譲(前文化庁文化財保護部文化財鑑査官)が任命された。
	9月12日	千代田区北の丸公園所在の旧近衛師団司令部庁舎は、重要文化財として指定のうえ東京国立近代美術館分室として活用をはかるため存置するべき建物に含めるとの閣議了解がなされた。
	10月2日	旧近衛師団司令部庁舎は、重要文化財に指定された。
昭和48年(1973年)	1月8日	旧近衛師団司令部庁舎(大蔵省普通財産)は、東京国立近代美術館分室として所管換えされ、文化庁は、同建物の文化財保存修理工事に着手した。なお、同工事は昭和53年3月に完了した。
昭和51年(1976年)	1月16日	岡田譲が館長を辞任し、後任には安達健二(前文化庁長官)が任命された。
昭和52年(1977年)	4月18日	文部省設置法施行規則が改正(昭和52年文部省令第10号)され、事業課は美術課に名称変更し、新たに工芸課が設置された。
	11月14日	文部大臣、文化庁長官臨席のもとに工芸館開館式を挙行了。これを記念して「現代日本工芸の秀作」展(11月15日～53年3月19日)を開催した。
昭和54年(1979年)	4月4日	文部省設置法施行規則が改正(昭和54年文部省令第11号)され、美術課を企画・資料課及び美術課に分離改組した。
昭和56年(1981年)	3月6日	昭和54年3月17日以来本館前庭地下に建設中であった新収蔵庫(990㎡)が竣工した。なお、工事中、先土器時代以降近世に至る遺跡が発見され、調査委員会を設けて発掘調査を行った。
昭和57年(1982年)	5月21日	当館開館30周年にあたり、所蔵作品による記念展を次のとおり開催した。 ・近代日本の美術1945年以後(5月21日～7月11日、本館) ・近代日本の美術1945年以前(9月18日～10月31日、本館) ・近代日本の工芸(5月21日～7月11日、工芸館)
昭和59年(1984年)	7月1日	文部省組織令が改正(昭和59年政令第227号)され、東京国立近代美術館は、文化庁の施設等機関となった。
昭和61年(1986年)	4月1日	安達健二が館長を辞任し、後任には犬丸直(元文化庁長官)が任命された。
昭和63年(1988年)	8月1日	犬丸直が館長を辞任し、後任には大崎仁(前文化庁長官)が任命された。



平成2年(1990年)	7月5日	大崎仁が館長を辞任し、後任には植木浩(前文化庁長官)が任命された。
平成7年(1995年)	3月31日	昭和62年度より実施していた美術館の大規模改修工事(外壁、空調設備、電気設備等)が終了した。
平成8年(1996年)	7月31日	植木浩が館長を辞任し、後任には面崎清久(前国立教育会館長)が任命された。
平成10年(1998年)	6月17日 12月11日	平成10年度補正予算(第1号)で、東京国立近代美術館(本館)増改築工事に関する経費が計上された。 平成10年度補正予算(第3号)で、東京国立近代美術館(本館)増改築に伴う本館改修工事等の経費の一部が計上された。
平成11年(1999年)	7月6日 7月12日 12月9日	面崎清久が館長を辞任し、後任には辻村哲夫(前文部省初等中等教育局長)が任命された。 東京国立近代美術館(本館)増改築工事のため、休館となる。 平成11年度補正予算で、東京国立近代美術館(本館)増改築に伴う本館改修工事等の経費の一部が計上された。
平成13年(2001年)	4月1日 9月26日	京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館とともに独立行政法人国立美術館の一機関となる。当館本館内に国立美術館本部が置かれる。 平成11年8月5日に着手した本館改修工事が完了し、9月26日に文部科学大臣、大臣政務官及び文化庁長官臨席のもと竣工式を挙行了した。
平成14年(2002年)	1月16日 8月29日 10月12日	開館記念展「未完の世紀：20世紀美術がのこすもの」を開催した。 天皇后陛下が「小倉遊亀展」をご観覧のため、行幸啓された。 当館開館50周年にあたり、本館で「コレクションのあゆみ」展を開催した。
平成16年(2004年)	9月10日	天皇后陛下が「琳派RIMPA」展をご観覧のため、行幸啓された。
平成17年(2005年)	7月5日	天皇后陛下が「小林古径展」をご観覧のため、行幸啓された。
平成18年(2006年)	5月3日 12月6日	皇后陛下が「藤田嗣治展」をご観覧のため、行啓された。 皇后陛下が「ジュエリーの今：変貌のオブジェ」展をご観覧のため、行啓された。
平成19年(2007年)	2月16日 10月6日 10月19日	天皇后陛下が「人間国宝 松田権六の世界」展をご観覧のため、行幸啓された。 工芸館開館30周年にあたり、本館講堂で開館30周年記念式典を行い、工芸館で「工芸館開館30周年記念展」を開催した。 皇后陛下が「平山郁夫：祈りの旅路」展をご観覧のため、行啓された。
平成20年(2008年)	4月1日 7月12日	辻村哲夫が館長を辞任し、後任には青柳正規(独立行政法人国立美術館理事長)が任命された。 青柳正規の後任として、加茂川幸夫(前文部科学省生涯学習政策局長)が館長に任命された。
平成21年(2009年)	9月4日	皇后陛下が「ゴーギャン展」をご観覧のため、行啓された。
平成22年(2010年)	4月11日 9月28日	皇后陛下が「生誕120年 小野竹喬展」をご観覧のため、行啓された。 皇后陛下が「上村松園展」をご観覧のため、行啓された。
平成24年(2012年)	10月16日	当館開館60周年にあたり、本館で「美術にぶるっ!ベストセレクション 日本美術の100年」を開催した。
平成25年(2013年)	1月10日	天皇后陛下が「美術にぶるっ!ベストセレクション 日本美術の100年」をご観覧のため、行幸啓された。
平成26年(2014年)	10月8日 12月2日	天皇后陛下が「菱田春草展」をご観覧のため、行幸啓された。 「友の会」の運営形態、特典等の見直しを行い、会員の募集を再開した。
平成27年(2015年)	1月 9月12日	東京国立近代美術館賛助会員(MOMATメンバーズ)制度の見直しを行い、新たに個人賛助会員の受付を開始した。 天皇后陛下が「No Museum, No Life? これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」をご観覧のため、行幸啓された。
平成28年(2016年)	1月1日 4月30日 7月12日	「MOMAT支援サークル」が発足した。 皇后陛下が「安田靉彦展」をご観覧のため、行啓された。 加茂川幸夫が館長を辞任し、後任には馬淵明子(独立行政法人国立美術館理事長)が任命された。
平成29年(2017年)	4月1日	馬淵明子の後任として、神代浩(前文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術総括官兼政策課長)が館長に任命された。
平成30年(2018年)	4月1日	東京国立近代美術館フィルムセンターは、独立して国立映画アーカイブとなった。

組織図



会員制度のご案内

当館では、東京国立近代美術館（MOMAT）をもっとお得に楽しみたい皆さまに、また、MOMAT をご支援くださる皆さまに、以下のメンバーシップ・プログラムをご用意しています。

《個人向け》

- 賛助会(会費：10,000 ～ 300,000円 有効期間：発行日より1年間)
- MOMAT サポートーズ(会費：5,000円 有効期間：発行日より1年間)
- MOMAT パスポート(1,200円 有効期間：最初のご利用日から1年間)

《企業向け》

- MOMAT 支援サークル

会員制度についてはこちら → <http://www.momat.go.jp/ge/support/>

施設概要

本館

土地	敷地面積	6,107㎡(環境省及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構から使用承認)
	構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階 地下1階
建物	建物面積	4,511.62㎡
	延床面積	17,192.6㎡(会場4,763.4㎡ 収蔵スペース1,337.8㎡ その他11,091.4㎡)

工芸館

土地	敷地面積	4,512.72㎡(環境省から使用承認)
	構造規模	煉瓦造 地上2階
建物	建物面積	929㎡
	延床面積	1,858㎡(会場657.7㎡ 収蔵スペース205.6㎡ その他994.7㎡)

## 利用案内

### ◎観覧料

#### 本館

区分		一般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方／65歳以上の方
所蔵作品展	個人	500円	250円	無料
	団体	400円	200円	無料
特別展・共催展	展覧会ごとに異なります。詳しくはこちらにてご確認ください。→ <a href="http://www.momat.go.jp/am/exhibition/">http://www.momat.go.jp/am/exhibition/</a>			

#### 工芸館

区分		一般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方／65歳以上の方
所蔵作品展	個人	250円	130円	無料
	団体	200円	60円	無料
特別展・共催展	展覧会ごとに異なります。詳しくはこちらにてご確認ください。→ <a href="http://www.momat.go.jp/cg/exhibition/">http://www.momat.go.jp/cg/exhibition/</a>			

※団体とは20人以上同時に観覧するもので、引率者は20人につき1人の割合で無料になります。

本館の観覧料、無料観覧日等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/am/visit/faq/#section1-2>

工芸館の観覧料、無料観覧日等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/cg/visit/faq/#section1-2>

### ◎開館時間

午前10時～午後5時 ※本館のみ金・土曜日は午後8時まで [入館は閉館30分前まで]

本館の開館時間等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/am/today/>

工芸館の開館時間等についてはこちら→<http://www.momat.go.jp/cg/today/>

### ◎休館日

月曜日 [月曜日が祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌日休館]、展示替期間、年末年始

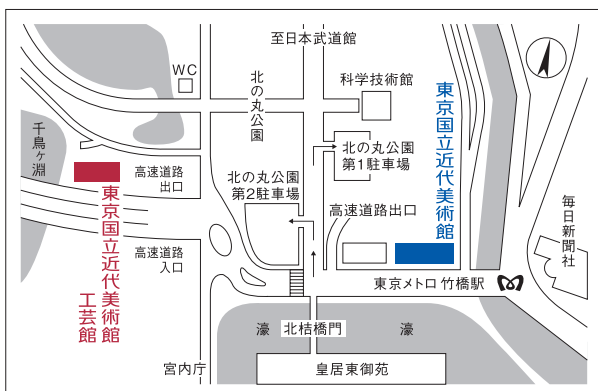
本館の年間スケジュールについてはこちら→<http://www.momat.go.jp/am/2018/>

工芸館の年間スケジュールについてはこちら→<http://www.momat.go.jp/cg/2018/>

### ◎所在地・問合せ先

**本館** 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1 TEL 03-3214-2561(代表)  
FAX 03-3214-2577(運営管理部)  
03-3214-2576(企画課・美術課)

**工芸館** 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1 TEL 03-3211-7781(工芸課代表)  
FAX 03-3211-7783



東京メトロ東西線「竹橋駅」下車(1b出口)

**本館** … 徒歩3分

**工芸館** … 徒歩8分

詳しくはこちら→<http://www.momat.go.jp/ge/access/>

公式ホームページ→<http://www.momat.go.jp>

公式twitter→<http://twitter.com/MOMAT60th>

公式facebook→<http://facebook.com/momat.p>



The National Museum of Modern Art, Tokyo

### MOMAT 支援サークル (MOMAT Corporate Partnership)

東京国立近代美術館は、企業による美術館支援制度を設け、当館の様々な活動にご協力をいただいております。パートナー企業の皆様には、社員証提示による所蔵作品展無料見学などを通し、美術館をお楽しみいただいております。

パートナー企業 (平成 30 年 4 月現在)

〈プラチナパートナー〉

 **木下グループ**    LUXURY CARD.

〈ゴールドパートナー〉

 **三菱商事**    **DNP** 大日本印刷    AVANT

〈シルバーパートナー〉

 **鹿島建物**    **Marubeni** 丸紅株式会社     **パシフィックコンサルタンツ**

 **JEOL** 日本電子株式会社    **SEIKO**    **ANA** Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

 **MS&AD** 三井住友海上火災保険株式会社